



◇ 今回は、岩田（旧姓・各務）成美さん（筑波大学社会・国際学群卒）の報告です。

世界中に最高のトイレを届けたくて

皆さんは、日本のトイレが世界でもトップクラスであることをご存知でしょうか？ もしかしたら、海外へ訪れたことのある方は、日本のトイレの快適さを実感したことがあるかと思います。私は日本のトイレが大好きで、一人でも多くの方に快適なトイレ生活を送って欲しいと願いながら、トイレを売っている一人の営業ウーマンです。そんな私がどのような経緯で今にいたったのか、少しでもお伝えできればと思います。

高校生時代は決して優秀な学生ではありませんでした。勉強に励む、というよりは部活動（新体操部）や生徒会活動を通じてイベントで張り切るタイプでした。進路を決めるにあたり、私は唯一得意だった英語を生かして国際的な活動がしたいと思い、茨城県にある筑波大学の国際総合学類に推薦入試を経て入学しました。

筑波大学は全長 8 km にも及ぶ広大な敷地の中にあり、都会の大学とは異なる、ゆったりとした大学です。広すぎるため、授業間の教室移動は自転車で移動しないとイケないほどです。学生はみんな大学周辺に住み、終電を気にする必要のない学生の街でした。

授業では、国際関係学や国際開発などを学んだり、体育ではトランポリンやボーリングの授業を受けたりと、多様な授業が受けられます。サークルにも入りましたが、主に私が時間を費やしていたのは、部活動でした。筑波大学は体育の学部が有名であり、様々なエリートアスリートが多く在学しています。そのことをあまり理解していない私は、新体操部の延長のような気持ちでダンス部に入部したのですが、身の程知らずとはこのようなことを指すのだ、と痛感することになりました。ダンス部は毎年全国大会で優勝常連校だったのです。そんな中に、仲間として入れてもらい全国大会を経験できたことは、とても貴重な経験となりました。今から思えば、あれほど自由に自分のやりたいこと

にがむしゃらに挑戦できるのは大学生時代のみなのではないでしょうか。全てが自分の意思次第です。

そんな中、私にとって大きな転機になったのが大学 3 年生の時に参加した、内閣府主催の国際交流事業である「東南アジア青年の船」というプログラムでした。国際交流がしたい！海外の文化について学びたい！と思いながらも、実践的な活動

が行えておらず、モヤモヤしていた中で出会ったプログラムでした。

大学 2 年生の際に出場した全国大会の様子。



「東南アジア青年の船」とは日本+ASEAN 10ヶ国から約300人程度の参加青年が約2ヶ月半の間、船で共同生活を行いながら各国への表敬訪問やホームステイを通して交流するという事業です。と言われても、あまりピンと来ないと思います。例えば、私達は船上に乗り込んで初めて自分のキャビンメイトに出会うのですが、私はインドネシア人とフィリピン人の子と同室でした。すると、次の日から毎日朝5時頃にインドネシア人のキャビンメイトの子が目覚ましがけたたましく鳴りました。なぜなら、彼女はイスラム教であるため、毎朝のお祈りがあるのです。「共同生活をする」ということは、そういうことなのです。互いの文化を見せ合い、その中で一緒に暮らしていく。互いの異なる部分を受け入れて、理解していく。机上では体験できない異文化交流生活が始まりました。



私達の家「ふじ丸」



約300人が船上で共同生活をします。

そんな中で、私は何度も同じ言葉を聞くことになりました。「ふじ丸のトイレが好き」「このトイレを国に持ち帰りたい」「ふじ丸のお風呂が一番」。ふじ丸は日本の旅客船です。部屋のトイレは日本製でした。私達日本人にとって当たり前である「トイレの水がしっかり流れること」「シャワーがたっぷり出ること」、それは日本を出れば当たり前ではありません。それは、元々理解していたつもりでした。しかし、予想をはるかに上回る勢いで、東南アジアの仲間たちは日本のトイレ、水周り環境を欲していました。

だったら、私がみんなに日本のトイレを届けよう！！

そう思い、下船後に就職活動の始まった私は真っ先に日本のトイレメーカーである TOTO 株式会社にエントリーしました。その後、晴れて TOTO へ入社することができ、現在は入社4年目として奮闘しています。

実際の現在の業務は、海外と関わることは全く無く、国内の販売促進に携わっています。CMで見るような大手ハウスメーカーに商品を売り込むこともあれば、町中で小さな看板を掲げている水道屋さんのおじさん相手に売り込みに行くこともあります。小さなお子様の住む家、ご高齢おばあさんが一人で住む家。ひとつひとつの現場に物語があり、トイレ一つで少しだけ幸せになれる家庭をたくさん見てきました。

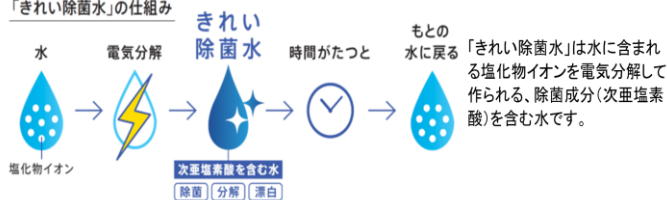


担当するリフォーム会社のイベントにて

我々TOTOは、トイレという空間が汚い場所であるという概念を覆し、快適で癒しの空間になることを願っています。そのためにも、様々な機能のついたトイレが開発されています。まずは家計に優しい節水型トイレ。現在、世界最小の洗浄水量である3.6Lの便器を発売しています。10年ほど前と比べると半分以下です。また「きれい除菌水」という、薬品を使わずに水道水を用いて除菌水を自動で作成、噴射してくれるような機能が加わり、嫌な匂いや汚れを抑えてくれるようになりました。

水から作られるので、洗剤を使わなくても
トイレがきれいに

「きれい除菌水」の仕組み



洗剤を使わないのでお手入れの手間がなく、環境にもやさしい

2017年8月発売のネオレストNX



TOTO独自の技術である「きれい除菌水」

また、TOTOは海外にも進出しています。現在は、一握りの人材のみが海外に行くチャンスをつかめますが、今後は更にグローバル展開が進むと予想されます。私も、この最高のトイレを広め続けるという使命のもと、挑戦し続けたいと思います。

チャンスはいつでも近くに転がっています。それを掴むかどうかは皆さん次第です。高校生活も大学生活もあっという間に終わってしまいます。その中で無駄な経験はひとつもありません。挑戦せずに後悔することがないように、自分の手で未来を切り開いていってください。